

創業以来、国内外の道路整備に貢献する建設機械メーカー。 土木建設工事締固め機械で業界2位のシェアを誇る

明和製作所は、道路工事での路盤の締固めやアスファルト舗装後の路面整形に用いられる締固め機械を中心とした小型建機メーカー。低騒音、高打撃、高起振力など独自の技術で工事作業員、工事監理者に喜ばれる建機を製造し、国内外のインフラ整備を下支えしてきた。5年前に創業70年を迎え、今後も社会に貢献しながら堅実かつ持続可能な歩みで100年企業を目指していく。



代表取締役社長 月原 潔氏

- 代表者 代表取締役社長 月原 潔
- 創 業 昭和20年10月
- 設 立 昭和26年3月
- 資 本 金 9,708万円
- 従業員数 70名
- 事業内容 振動ローラ・ランマ・プレート・コンクリートカッタ等の建設機械の製造・販売
- 所 在 地 〒332-0031 埼玉県川口市青木1-18-2
TEL 048-251-4525 FAX 048-256-0409
- U R L <http://www.meiwa-ltd.co.jp>

道路工事現場で、作業員が小型建設機械を使って地面を締固めたり、アスファルトの表面をきれいにしながら締固める風景を目にした人は多いだろう。川口市にある株式会社明和製作所は、この小型道路機械を開発、製造し、商社や建機販売会社、レンタル・リース会社等に販売する建機メーカーである。道路用の小型締固め機械では業界2位のシェアを持つ。

主力は「ランマ」「プレート」「前後進プレート」「ローラ」「カッタ」の5品目。

「ランマ」は高速で上下動する打撃板で打撃し、その衝撃力でアスファルト敷設前の路盤を締固めるもので、主に管工事や道路補修など部分的な掘削工事の際に用いられる。「プレート」そして前後に動く「前後進プレート」は主にアスファルト敷設後に用いられ、振動板に取付けた起振装置の振動によって路面を整形して締固める機械である。「ローラ」はより広い範囲を効率よく締固めるもので、「カッタ」は、コンクリートやアスファルトの路面を切断する機械である。

「当社の製品は作業員が操作レバーを介して使用する小型建機です。自社ブランドで製造しており、一部海外製品はOEMで販売しています」(月原潔社長)

平成27(2015)年に、創業70周年を迎えた同社。同社の建機は、戦後の復興から今日に至るまで経済発展の縁の下での力持ちとなって活躍してきた。

→ 戦後復興に大きく貢献

創業は終戦間もない昭和20(1945)年10月。現社長の祖父・月原貢氏が川口の地で誕生させた。

「祖父はエンジニアで農機具に携わっていたと聞いています。戦後、日本の道路舗装の機械は欧米の製品を手本に“これ以上のものをつくろう”と開発が始まったようです。祖父もそうした思いで当社を立ち上げ、社会への貢献を目指しました」

戦後、急ピッチで進められた道路舗装や下水道管等のインフラ工事。同社の製品はその一翼を担い日本の復興に大きく貢献し、それと同時に売り上げも右肩上がりに伸ばしていった。その後、高度経済成長に伴う輸送業の発展やモータリゼーションによるアスファルト道路の敷設、市民生活を支える管工事等インフラ整備の需要が追い風となり一層の飛躍を遂げる。

昭和40年代には、全国からの受注に応えるため大阪、福岡、名古屋、仙台、札幌に営業所を展開。その後、北海道から沖縄まで各地の修理工場と提携を結んでメンテナンス体制を構築するなど、早々と全国への足場を固めていった。こうして同社は、戦後の日本の発展を文字通り足元から支えていったのだ。

→ 中国に進出し、技術とマインドを育成

月原社長はアメリカ留学後、外資系企業勤務を経て昭和63(1988)年に同社に入社する。営業、工場勤務、輸出業務を担当し、平成13年に社長就任。そして、社長として初めての大きな決断、中国江蘇省昆山への進出に向け準備を進めた。

昆山の中国工場「明和建设機械(昆山)有限公司」に自社の製造技術と日本のモノづくりのマインドを浸透させるにはどうしたらいいのか——考えた末、まず中国の技術者を日本に呼び、1年間の研修を受けてもらう制度を設けた。それで製造技術と日本語をマスターしてもらい、中国に戻り日本人の駐在スタッフとともに指導をしてもらう。同様に、作業場で働くスタッフも交代で3カ月間来日してもらい、組み立てノウハウを身につけてもらうというものだ。試行錯誤で取り組みを進め、地道に同社の製造技術やモノづくりの精神を中国のスタッフに浸透させていった。

「今は技術力が向上し、スタッフの定着率も良く、創業のメンバーはほとんど退職していません」

平成19年、中国工場でISO9001を取得し、昨年3月には昆山市周市鎮政府から高品質発展企業賞を受賞した。同社の高品質なモノづくりのスピリットが、中国のスタッフにしっかりと根付いていることの証しであった。

→ NETISに登録された製品群

月原社長はさらに他社の先手を取るため、国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS(ネティ

ス)」の登録に向けて取り組みを進めた。

「技術力がないと生き残れませんから、差別化を図ろうと考えました。そこで、他社製品にない特許を取ったり独自の技術で製品を開発していったのです」

そして平成22年に同社の低騒音プレート「KP5S」「KP6S」がNETISに登録され、それを皮切りに低騒



音ランマ「RTX(U)」シリーズ、高打撃ランマ「RTX(D)」「HRX(D)」シリーズ、高起振力ハンドガイドローラ「MSR」シリーズも次々と登録された。

「低騒音ランマ」は合板を鉄板で挟み込んだ従来の打撃板をウレタン素材に変えて打撃音を抑制、さらにエンジン上部にある特許取得の“防音カバー”で作業への騒音を低減した。また、強靱な防音カバーがエンジンを保護するため耐久性が向上し、ダブルクリーナの装備でエンジンを土砂や雨などから保護して故障も抑制。さらに騒音低減構造がシンプ

ルなため、メンテナンスが容易でランニングコストが抑えられ、低騒音によって騒音対策費の削減にも貢献できるという画期的な製品である。

そして、高反発スプリングが内蔵された「高打撃ランマ」は、従来のものに比べて締固め作業効率が大幅に向上し、工事関係者に高い評価を得ている。

「低騒音プレート」の地面を締固める振動板は特



許取得の低騒音構造で打撃時の騒音を低減するという特徴を持つ。

「高起振力ハンドガイドローラ」は、フレームの剛性を上げて高起振装置を装備することで起振力を向上。それによって締固め時間が短縮でき、作業の効率化が図れる優れたものである。それぞれの製品は搭載エンジンや機械質量、スペックの異なる製品が展開されラインナップも豊富。作業オペレータが高齢化している工事現場において、小型軽量で操作が容易という点も同社製品の魅力となっている。

➔ 社内環境の整備と地域貢献

「社長に就任してまず、若手を育てたい、風通しの良い企業風土をつくりたいと考えました」

そこで月原社長は、“若手の会”をつくって月1回飲み会で交流の機会を設けたり、定期的にミーティングを開いて横のつながりを強くする取り組みを始めた。また、技術者が最新の技術に触れられるよう、積極的に国内外の展示会に出向かせ、同時に開発や特許取得に向けて、連携して取り組める風通しの良い風土もつくっていった。

また地域貢献も積極的に行い、同社は埼玉りそな銀行が取り扱う「埼玉りそな寄贈品付CSR私募債」を発行、川口の小学校を中心に金管楽器が寄贈された。

「川口のお祭りで小学生がバンドを組んで演奏をするんです。そうしたことに少しでも役に立てればと」

その取り組みは子どもや学校職員に喜ばれ、地域の活性化や子どもの教育・育成に寄与している。

➔ 社会に貢献する企業として邁進

同社の製品が活躍する場の多くは公共工事で、景気に大きく左右されることはない。現在も敷設後30～50年がたつ老朽化した水道管等の交換やアスファルト道路の補修工事によって、安定した需要の伸びを見させている。今後電線地中化の計画が具体的に進めば、今以上にニーズが高まることは必至だろう。

「創業者は社会貢献と誠実を社訓にし、2代目は売る人、レンタル・リースする人、使用する人、つくる人、いずれが損しても営業が成り立たないと考え、四方良し的な営業訓を旨としました。私は継続すること、社員とその家族を幸せにすること、社会に貢献する機械をつくり、提供することを社是に歩んでいく考えです」

同社は今後も堅実な歩みと持続可能なスタイルで会社を成長させ、100年企業への道を進んでいこう。そして売り手、貸し手、使い手、つくり手等にとって“多方良し”となる製品を届けていく。